

H29新歓 沢コース初日 報告書

- 【山 域】 丹沢
【コース】 世附川大瀬沢～バラシマ沢
【日 時】 平成29年9月30日（土曜日）
【天 候】 晴れ時々曇り
【メンバー】 CL:花島 SL:渡邊(三) 石橋 上茂 大塚 小原 加藤 古関
【コースタイム】 平野(吉政) 9:15～世附大瀬 10:45～11:00～大瀬沢入渓点 11:15～11:30
～バラシマ沢出合 12:30～終了点 14:15～14:30～高指山 15:15～平野(吉政) 15:45

【山行報告】

6月に幹事役の佐藤さんから「今年の新歓は富士山周辺を考えてます。」と仄めかされてはいましたが、正直沢のコース設定には厳しい山域で、頭を悩ませました。

4年前の西湖での新歓では、初日2班に別れて芦川濁沢と滝子山ズミ沢の記録がありましたが、濁沢は不評だったようだし、ズミ沢は遠いしで選択肢から除外しました。

8月に入り、上茂さんと小原さんの助言もあり、富士山の沢と山中湖側から入れる丹沢世附川流域で手ごろな沢を探して、ようやく富士山周辺の沢2コースが出来上がりました。

ただ、どちらもぶっつけ本番で臨むには情報が乏しく会の負担で下見に行かせてもらいましたが、その甲斐は十分にあったと思います。

参加表明をいただいて諸々の理由で来られなかった方には「楽しかった。参加できずに残念でしたね。」を、当日ドタキャンの唯一の新人には、「あ～あ伝説作っちゃった。」

今後、枕詞のように言われ続ける「あ～、あの〇〇さんネ。」に耐えて大きくなってください。

そんな訳で初日の記録はリーダー責任ということで私が書かせていただきます。

9/30 丹沢大瀬沢～バラシマ沢

出発時のドタバタや一部渋滞もあり、予定時間から1時間15分遅れで出発しました。古関さんはかなり早くから到着していて、大分待たせてしまいました。

稜線越えの入渓で登りは切通峠までで標高差わずか50m、あとは下りそれもほとんど林道歩きだ。

最近、工事に入ったようで普通の車が通れる立派な林道で、危険箇所もない。

新歓なのに肝心の新人がひとりもない。

入会年度の若い小原さんの歓迎山行にしようか？遠方から参加している古関さんの歓迎山行にしようか？でひとしきり盛り上がる。



(新人のいない新歓山行の出発風景)



(世附大榎の滝)

今回コース末端の世附大榎に到着する。

落ち口から見るとかなりの高さがあるように見えたが、下からは高さから来る威圧感を感じられなかったが、林道から滝へ向かう途中で気温の低下が感じられ、ミストシャワー効果だろうか？

岩が滑り易い。滝まで行くのは止めて、手前の岩場で記念写真を撮って林道に戻る。入渓点は林道をやや戻ったところから踏み跡を辿って河原に降りる。

降りたところで沢装備に替え、ちょっと腹ごしらえして遡行を開始する。スタートの標高は約650m。遡行標高差はわずか300m程度だが、めぼしい滝がないのでなかなか高さが稼げない。水は青味を帯びて確かにきれいだし、倒木も少なく沢自体もきれいだし、水流も適度にあるが、変化に乏しく単調な印象は否めない。アクセントとしての滝が欲しくなる。



水はあっても膝上程度で、冷たさも感じられない。下は砂というより細かい砂利で、前の人の歩いた後も濁らず足元はよく見えるので、安心して足を置ける。

釜の深いところも簡単なへつりや階段状の岩場があって楽に超えられる。

流石に堰堤は高巻くしかないが、小さく巻けるので恐怖感はない。

緊張感がなく、いい加減飽きたところで切通沢とバラシマ沢の分岐に到着する。

大榎沢は1時間ほどの遡行で終了する。距離的には遡行のちょうど半分といったところだ。

入山時に渡った切通沢橋を潜ると様相に変化が出てくる。釜も浅く水もきれいでなので、安心して釜に入れる。小滝も階段上で水流もほどよく心地いいくらいだ。ゴルジュっぽい箇所も浅いのでジャブジャブ歩ける。堰堤も出てくるが威圧感がないのでさほど気にならない。





(バラシマ沢 スケールの小さい2段滝)



(バラシマ沢 リトルV字滝)

へつる箇所も水がきれいなので水面下のスタンスもよく見える。水面上も低い箇所をへつるし、失敗して落ちて流されるほどの水流もないし、ドボンする深さもない。怖さを感じることなく楽しめる沢は楽しい。



やがて二条10m滝が出てくる。ここは安全を期してロープを出して登る。



(二俣 左がバラシマ沢)

バラシマ橋を潜ると左岸から要所小屋沢が入ってくる。沢幅も狭くなり源流の感じ出てくるが、まだまだ小滝がちょいちょい出てきて、飽きがこない。

普通、沢につめは付き物だが、ここは鉄塔銀座で送電線の巡視路が使える。これを使わない手はない。巡視路橋がバラシマ沢に掛かっているの、これが目印だ。上がりやすいところから斜上気味に右岸沿いの林道に出て遡行を打ち切る。

沢装備を解き、小休止の後、土に埋もれた

巡視路階段を登ると、すぐに尾根に出る。

あとはこの尾根を忠実に辿れば、高指山に着ける。

ただ、ガッチャや濡れた沢靴を背負っているのも荷が重く感じる。

高指山からは残念ながら富士山を望むことは出来なかったが、ススキと山中湖が迎えてくれました。記念撮影もそこそこに下山する。

出発が遅れたが、途中ペースアップをして何とか予定したコースを歩くことができました。



(高指山で山中湖を背景に記念撮影)

以 上